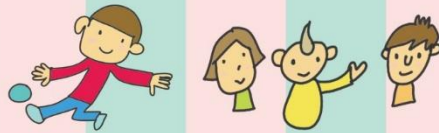


精神障がいのある親とその子どもの支援に関する学習会

第 11 回



この学習会は、精神障がいを抱えながら子育てをされている親御さんへの支援、精神障がいのある親と暮らす子どもさんへの支援について、どのように関わっていけばよいかを参加者の皆さんと一緒に考える機会になれば・・・と毎年 5 月に開催しています。

学習会には、障がいを抱えながら子育てされている当事者さん、子どもの立場の方、支援者の立場の方と様々な方にご参加いただいていることから、誰もが活用でき、自分事として考えることができるテーマとして、今年は「ぶるすあるは」さんのサイトで紹介されている『権利から始まるリソースマップ』を取り上げたいと思います。リソースマップ発案者の長沼先生、マップ制作に関わって来られたぶるすあるはの北野先生・ちあきさん、実際の活用例を東京医科大学病院の小野先生よりお話しいただき、皆さんとディスカッションできれば・・・と思います。（詳しくは裏面をご覧ください）学習会の後半は、親支援・子ども支援に取り組む各機関から活動紹介をしていただく機会を設けたいと考えています。

【開催日時】 2025年 5 月 31 日（土） 13:00 ～ 16:30 Zoom によるオンライン開催

【参加対象】 精神障がいのある親とその子どもの生活や支援について考えたいと思っている方 *無料

【プログラム】

13:00 ～ 13:05 挨拶および学習会の説明とオリエンテーション

13:05 ～ 14:25 『“権利から始まるリソースマップ”をもとに支援について考えてみよう』

(1) 「権利から始まるリソースマップ」作成への思い・狙い

東京都立大学 人文社会学部 長沼葉月先生

(2) 「権利から始まるリソースマップ」を作成するにあたっての工夫

ぶるすあるは 北野陽子先生・ちあきさん

(3) 「リソースマップを生かした医療を含めた多職種連携」

東京医科大学病院メンタルヘルス科 小野美樹先生

14:25 ～ 14:35 休憩

14:35 ～ 15:30 質疑応答 および 参加者との意見交換

15:30 ～ 16:30 各機関からの取り組み紹介&挨拶（終了）

*取り組み紹介など提供いただける情報等がありましたら、メールでお寄せください。参加者の皆さまにメールにて情報共有させていただきます。

主 催： 親&子どものサポートを考える会

後 援： 特定非営利活動法人 地域精神保健福祉機構（コンボ）

公益社団法人 全国精神保健福祉社会連合会（みんなねっと）

鈴鹿医療科学大学

問 合 せ 先： 鈴鹿医療科学大学 看護学部 土田幸子

E-mail / tsuchida.p@oyakono-support.com

または sachiko@suzuka-u.ac.jp



皆さまのご参加をお待ちしております

【学習会のご案内】

今回の学習会で取り上げる『権利から始まるリソースマップ』は、病気や障がいをかかえながら子育てされている親・その子どもが、使えるかもしれない制度、人や場所について、「権利・望み」という視点からまとめたシートで、子どもの権利条約、障害者権利条約をベースに作成されています。

このマップを親御さん、お子さんと一緒に眺めることで、「こんなことに困ってない?」「こんな制度が使えるかも・・・だけど、どうかなあ?」と話題にすることができます。発案者・長沼先生が、精神障害のある親と暮らす子どもたちの「生きる」と「未来」を応援する研究者や NPO 法人で構成される『チームクリフ (TEAM KIDS LIFE FUTURE)』に呼びかけ、このマップは作成されました。

一部抜粋

リソースマップの
QR コード



精神疾患をかかえる親といっしょに暮らしている子どもさんへ

あなたが自由に好きなことにチャレンジできるために
暮らしをささえる仕組みがあります

あなたがのぞむことはありますか?
のぞみを言うのはわがままじゃないです

C1	C2	C3
☐ じぶんの好きな活動 で息抜きがしたい	☐ 世話をしてほしい 家族の世話・家事 etc	☐ 家以外の場所に 一時的に宿泊したい
育つ権利 (休む権利・遊ぶ権利) ・学校での部活動 ・児童館、プレーパーク ・子どもの居場所事業 ほか	育つ権利 (休む権利・遊ぶ権利) ・家事援助 (ヘルパー) ・子育て世帯訪問支援事業 ・通院等介助 ・自治体独自の配食、宅食サービス ・子ども食堂、フードパントリー ほか	育つ権利 (休む権利・遊ぶ権利) 個人の尊厳 ・子育て短期支援事業 ・子どもシェルター ・休日夜間緊急支援事業 ・一時保護所、児童養護施設 (児童相談所を経由した保護) ほか

☆ 話題提供者方からのメッセージ

長沼先生:どのような状況に暮らす人であっても、「病気で子どもを上手に育てられなくて申し訳ない、支援を使わないといけない親で情けない」「他にも困っている人はいるのに自分だけ助けてもらいたいというのはわがままだ」等と支援を利用することに罪悪感を抱くことなく「その人らしい生活を送る」ことが保障されるようにと願ってツールを提案してみました。少しでもお役に立ちますように。

ぷるすあるは:どのようなツールだったら使いやすいだろう?と試行錯誤を続けています。リソースマップのシート数はだんだんふえて 7 種類。関連ツールも作成中です。みなさんの声をきけると嬉しいです。

小野先生:精神疾患を抱える親の子育て支援をすることは、その子どもに良い効果をもたらすだけでなく、親の疾患への治療効果も高まるというエビデンスが出ています。家族全体を支えるには、医療だけにとどまらず福祉をはじめとした多職種連携が重要です。しかし、連携にあたって、医療の敷居が高い、主治医が関わる時間が限られており十分な関わりができない制度そのものに問題があります。限られた診療の中でのリソースマップを活用や日頃どのように福祉との連携をしているのか当院での取り組みをご紹介しますと思います。

【参加申し込み方法】

①参加者氏名、②所属、③職種(立場)、④メールアドレスを明記し、tsuchida.p@oyakono-support.com までメール、もしくは右記の QR コードからお申し込みください。

受付後、受付完了メールを返信させていただきますので必ずご確認ください。

参加申し込みフォーム (QR コード)

